

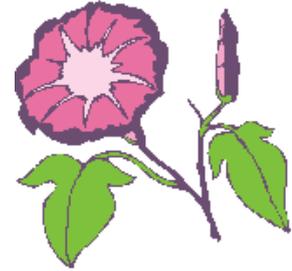
地域と協同の 研究センターNEWS 119号

巻頭エッセイ

いつか来た道

高橋 正

愛知大学名誉教授・地域と協同の研究センター顧問



ほどなく太平洋戦争終結から79年目の夏を迎える。今年の平和行進を前に東三河の各市町村を訪問した。程度の差はあれどの自治体も戦災犠牲者・戦没者の慰霊や平和祈念行事に取り組んでいる。しかしなべて被爆者や戦没者家族などの減少でこれらの行事や戦争体験を継承する催しなどは確実に難しくなっている。それを待っていたかのように、国家秘密保護法が制定され、防衛装備移転三原則が閣議決定され、さらに集団的自衛権まで閣議決定され、政府の解釈で憲法が変えられてしまう事態がいま起こっている。歴史はドラスチックに変る。新興国が台頭しアメリカ一国の力で世界の平和を維持することが難しくなったこと、とりわけ中国の海洋侵出やテロや武装集団の活動の広がりなどを挙げ「個別自衛権」では国民の命を守れないというのが政府の解釈改憲の論拠となっている。

安倍首相は精力的に進めている外国訪問の行く先々で自らのとる政治姿勢を「積極的平和主義」と喧伝し、アメリカとの同盟関係をわが国の「集団的自衛権」でより強固にすることで、国際社会の平和と安定へ貢献できると主張している。防衛省の軍需関連産業の強化戦略案では、米国、英国やフランスなどと武器の共同開発を進め、軍事的な協力関係を築くとあるが、首相は本年4月のオーストラリア訪問で同様な協力に向けた交渉に入ること合意している。ベトナムやトルコで原子力発電施設の建設を成約させたことと併せると首相外交は、軍需産業と原子力産業のトップセールスの感を否めない。このまま進むとわが国は「死の輸出国」に堕ちかねない。

現憲法は戦争放棄という透徹した平和主義で未来世界の在り方を指し示している。これこそが「積極的平和主義」でなくてなんであろうか。いつ火が吹くかわからぬ軍事力均衡による平和にはかつての悲惨な道をたどる危険が潜んでいる。「平和とよりよき生活」を志向する協同組合には、この平和の危機に真摯に取り組む責務がある。来年、敗戦・被爆80年には今の暗雲を払い、憲法の生きる社会に戻したいものである。決めるのは政権与党ではなくわれわれ市民一人ひとりの意思と行動である。

CONTENTS

| | |
|-------------------------------|-----|
| 巻頭エッセイ「いつか来た道」 | 1 |
| 2014年国際協同組合デー記念行事を開催しました！ | 2 |
| 基調講演「協同組合の“いま”と“みらい”」 | |
| 「研究フォーラム職員の仕事を考える」パネル活動報告 | 3 |
| 総勢137名の守山センター 巾センター長にお聞きしました！ | |
| とうかい食農健サポートクラブ総会記念講演・ワークショップ | 4 |
| “五感を重視した食育ワークショップ”の紹介 | |
| 情報クリップ | 5-7 |
| 企画案内・書籍案内 | 8 |

研究センター 7月の活動

| |
|------------------------------------|
| 4日(金) 国際協同組合デー「協同組合の“いま”と“みらい”」 |
| 5日(土) 三重のつどい共催シンポ「持続可能な未来」 |
| 6日(日) 地域福祉を支える市民協同パネル訪問調査「薫のひろば」 |
| 7日(月) 共同購入事業マイスターコース第1回 |
| 9日(水) 岐阜地域懇談会世話人会 |
| 12日(土) 第2回理事会 |
| 14日(月) 理事ゼミナール世話人会 |
| 16日(水) 環境/パネル武豊火力発電所見学 |
| 18日(金) F職員の仕事を考える世話人会/三河地域懇談会実行委員会 |
| 24日(木) 三重のつどい/地域福祉を支える市民協同パネル世話人会 |
| 25日(金) 暮らしを語りあう会 |
| 28日(日) 共同購入事業マイスターコース第2回 |
| 31日(木) 食と農パネル世話人会 |



2014年国際協同組合デー 記念行事 を開催しました！ 「協同組合の“いま”と“みらい”」

—地域社会の問題解決に取り組む 協同組合の実践から考える—

7月4日（金）2014年国際協同組合デー記念行事をワークライブプラザれある（全労済金山会館）6階大会議室に於いて、組合員、役員職員92名の参加で開催しました（地域と協同の研究センター主催、コープあいち、JA愛知中央会、大学生協連東海ブロック、南医療生協の後援）。まず三重大学の石田招へい教授より、「地域社会の問題解決に取り組む協同組合」をテーマに基調講演をしていただき、協同組合が実践している事例を3つ報告していただきました。その後、全体討論をしました。2012国際協同組合年を引き継ぎ、愛知県での協同組合間提携を進めていくさらなる一歩となったのではないかと思います。（文責：事務局）

基調講演 「地域社会の問題解決に取り組む協同組合」

三重大学 名誉教授・招へい教授 石田 正昭 氏

政府の規制改革会議は農協改革について提案しています。農協はどう考えるのか重要ですが、そういう攻撃をはねかえす意味でも、地域と共に歩む協同組合になることが非常に重要です。規制改革会議の方たちは、協同組合の日常の活動を全く知らないのではないかと。内閣府に向かって情報を発信する必要があると思っています。

協同組合全体に波及する問題として2つあります。1つは自己改革です。自己改革は、人に言われてやる、そういう筋合いのものではないのです。これは民主的な方法で意志決定する協同組合を完全否定していると申し上げたい。2点目は、全農の株式会社化です。規制改革会議の人たちは、全農は商社に匹敵するような大きな組織だ、あれが協同組合か、と提案しています。問題は、協同組合セクター全部、日

生協含め、連合会はでかいからそれは協同組合じゃない、他の法人になりなさいということになります。大企業の税軽減の手当として、中小企業や協同組合の増税が行われます。外形標準課税を導入して、今回もっと露骨に、赤字でも税金をかけるということです。今回の農協改革案は対農協でなく、協同組合つぶしの意味があります。背景としてのTPPがあります。争点がJA全中の解体の内容をもっていますが、なぜそこがねらい打ちされるか。JA全中を中心にした農協は、まだ反対派の拠点になっています。そのあたりに関係すると思います。

私が言っていることは多くの人に受け入れられているかということどうも現実とは違うんですね。農業を機軸として、地域で協同の取り組みをJAグループが行っていますが、このことを関係のない都市住民は知っていないと思います。農協の地域社会への存在意義がまだまだ広く行き渡っていないと思います。やはり理論武装してたたかってほしい。協同組合としてどうなのか、どう問題をとらえるかという理論武装が必要だということです。

生協、農協、さまざまな協同組合があるが、地域に根ざすためにはFEC（Fは食べ物、Eはエネルギー、Cは助け合い）をベースに、それぞれの組織で創造的な解を見出すこと、もう一つ、生協の場合は女性の世界にどう男性をまきこむか、農協の場合は男性の世界に女性の参画をどうすすめるかが課題だと思います。

実践報告—「地域社会の問題解決に取り組む協同組合の実践と今後への課題」

下記の3つの報告をしていただきました。

報告① 「農業振興と地域社会に貢献する『JAグループ愛知の取り組み』」

JA愛知中央会常務理事 加藤 勇二 氏

報告② 「JA愛知東・コープあいちの事例報告」

JA愛知東 新城営農センター課長 河合 司 氏
生活協同組合コープあいち総合企画部部長 見山 新一 氏

報告③ 「ささえあい たすけあい 地域だんらん まちづくり ～『南生協 よってって横丁』づくり～」

南医療生活協同組合非常勤理事 川出 栄子 氏

各協同組合の現状の実践や今後の取り組みについて報告がありました。

全体討論 名古屋市立大学大学院教授の向井清史先生のコーディネートにより、協同組合の批判があることや、協同組合の実態が知られていないことなどをどうしていくか、どう考えるかについて意見交換がされました。

今回の記念行事の報告書を、後日発行する予定です。作成しましたら会員の皆様にはお届けします。（事務局）

「研究フォーラム職員の仕事を考える」 パネル活動報告

(文責：事務局)



総勢137名の守山センター 巾センター長にお聞きしました！

研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会は、「みんなで課題を達成する」マネジメントを主眼に行っている支所長・センター長にヒアリングを行っています。昨年12月のコープぎふ飛騨支所に続き、今回3月1日に、コープあいち守山センター巾センター長に、共同購入事業に関わるセンター運営についてお聞きしましたので紹介します。

1. コープあいち守山センター

3つのセンターが合併してできました。配達エリアは、名古屋市中区、守山区、東区、北区、千種区、春日井市、尾張旭の1部、入り組んだエリアになっています。店舗もあります。101人の職員に定時職員が26人。配送パートの方99%が女性。

2. 目標は押し付けるのではなく主体的に・・・

このセンターは共済の個人目標ありません。私がここに来たときそうになっていました。センター目標はあります。そのやり方で去年の夏は500件目標達成しました。そこがこのセンターの特徴、みんなでやるというスタンス、個人の目標に置き換えずにチームの目標やセンターの目標にしてみんなで取り組んでいます。仲間づくりも個人目標はあるけれど見えないようにして、グラフはないです。

楽しくやるのが大事だと思う。目標を無くして部活のノリで楽しいのではなくて、自分たちの目標をやりきった仕事の楽しさで「楽しい」、ここにきて「安心した」という人います。兼子さんの「協同組合のありかた」の中で「競争社会に乗っちゃうと本質が見えなくなってくる」と言われていますが、協同組合も年を追うごとに変化してきて、組織の意義がぶれ始めてしまった。ここはみんなで力を合わせて目標達成を目指します。夕方帰ってくるとみんな楽しそうですよ。

3. コミュニケーションをとるために

金曜日の朝1時間かけて毎週全員でミーティングをやります。そこで具体的に先週の振り返り、今週何をやるのか確認し、パートさんが準備して、全員で試食会をします。1時間のメニューは副センター長が作り、会議室でぎゅうぎゅう詰めになってやります。そこで意思統一し、気持ちを一つにします。たまにセンター長の私も商品についてロープレをします。それを見て「センター長もこんなレベルだ。僕たちもできる」って言います。打ち合わせのための会議などはしません。立ち話で「どう？」ってやっています。

チームでは、毎朝朝礼をしっかりやっています。チーフがしっかりしていて運営の中で要になっています。今は夕礼がないので、誰が昨日頑張ったのかボードにMVPが書いてあって、それを見てチーフが「〇〇さん昨日お誘い一件あったけれど、それはどういう風だったの？」「こういうぐあい・・・」「今日のがんばろ～は〇〇さんに言ってもらおう」なんてやっています。やってこいじゃなくて、どうやったらできるか一緒に考えています。若者とベテランが和気藹々とやっています。

4. このセンターの雰囲気はどこから？

朝礼は朝9時15分から9時半まで15分間、一人でぼつんとしている人はいません。みんなでやっています。副センター長、マネージャーが気配りしています。チーム運営を大切にしています。それがセンター運営につながっています。基本的に全員と(アルバイトさん含めて)話すようにしています。挨拶をふくめて「どう？」って。そして全員の夕礼の報告書を読んでいます。みんなも「センター長、読むんだ！」と言っています。



数字ありきの世界なんだけれど、関わり方を変える。数字だけに特化しないで、偏らないで、やはり人の集まりなので環境をつくっていくことが大切です。数字は結果なので、そこにアプローチするやりかた、過程が大事だと思います。去年共済キャンペーンで心配なので声をかけたら「何にも心配しないで見てくれ」って言われ、みごとやり遂げました。



とうかい食農健サポートクラブ 総会記念講演・ワークショップ

“五感を重視した食育ワークショップ”の紹介

6月21日（土）、とうかい食農健サポートクラブ主催で“五感を重視した食育ワークショップ”が43人の参加で開催されました。食育の土台となる「五感を重視し、食と向き合って」みよう、と、「食の探偵団」の団長サカイ優佳子氏と副団長田平恵美氏を講師に、食べものについて、見たり、聴いたり、味わったり、触れたりして、感じたイメージを、どのように伝えるかをテーマに、ワークショップを行いました。今回はその一部を紹介します。（文責：事務局）



左：サカイ氏 右：田平氏

「食の探偵団」は12年この活動をしてきています。今日はみなさんに探偵になってもらい、探っていただきます。これからの時間が楽しくなりますので、食のいろんなことを探っていきましょう。探るための武器は私たちの五感です。五感を使って探偵になってもらいます。まず五感ってなんでしょうか？味覚、視覚、聴覚、触覚、嗅覚ですね。まず、五感の中の一つだけ、嗅覚を集中して使ってみるということをやってみます。番号のついたカップを配ります。3つのカップがあり、カップの上にアルミ箔をかぶせ、小さな穴を空けてありますが、これをはがしたりして視覚を使ってはダメです。振ってみて触覚を使うのもダメです。

ワークブックには、「なんの香り？」とあります。1・2・3のカップに、何が入っているか探り当ててください。名前がわからなければ、どんな感じが書いてください。また声に出すこともNGです。（各グループで臭いをかいで、1・2・3の三つのカップに何が入っているかワークブックにメモをしました。）

1番は、何だと思えましたか？記入した内容は？「土臭い」「生臭い」「ミルクの香り」「しいたけっぽい」「牛乳」「チョコ」「ごはん」「ドライフルーツ」「おせんべい」「ポテトチップス」

2番は、「魚の臭い」「とり」「ふりかけ」「魚の缶詰」「するめ」「イカの一晩干し」「アジの塩焼き」「乾燥しいたけ」いろいろな回答があります。

3番は、「レタス」「キュウリ」「青臭い」「バナナ」「漬け物」

では目で確かめてください。1番は「ごはん」、2番は「海苔」、3番は「キュウリ」でした。一番意外だったのは「ごはん」です。「ごはん」は、いつも当たる人が半分もいないです。「ゆで卵」とか、「お酒」とかという方も多いですね。この三つはカップ巻きセットでつくってみました。

匂いは複雑な構成があって、研究している先生もみえます。数値化してみえますが、イチゴジャムとエノキダケが似ているということです。ごはんも複雑な香りがあるということでしょう。匂いは、いろいろな分子が一緒になって認識しますが、その時の体調や食歴からも変わるようです。



なんの香り？

○その他、大きな布で覆われた箱に手を入れ、触感だけで何か探ってみるワークや、ペットボトルに用意されたドリンクをまずカップに入れ、色や臭い、飲んだみた味覚で原材料を当てるワーク、赤・青・緑の皿の上にしぼったマヨネーズを比較して正体を探るワーク、トマトの断面図を思い出して書いてみて実物と比べてみるワーク、バラバラになった親子丼のレシピを正しくならべてみるワーク等に取り組みました。また「食の探偵団」は、今後の食糧問題に対して、「乾物」が大事なものになってくるのではないかと問題提起いただき、終了しました。

○当日のアンケートに記載された参加者の感想を紹介します。

「本日の講演を聴いて、普段自分がいかに五感を用いることなく視覚と味覚だけで食事をしているかがわかりました。調理をしている時に“いい香りだな”と思っても、食事をする時にはあまり意識していないなと感じました。また、どれだけ飽食のもとで生きているのかも痛感しました。ぜいたくを覚えて食材一つ一つの味、または素材そのものの味を忘れていた自分に気づかされました。

数学的な思考、世界が抱える食の問題にも触れていって、とても充実した内容でした。」

情報クリップ



| メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所 | 目次・主な内容 | 発行年月 判型 定価(税別) |
|--|--|---|
| <p>▶こだわり店舗の顧客サービス</p> <p>~~~~~</p> <p>くらしと協同</p> <p>2014. 夏号</p> <p>くらしと協同の研究所</p> | <p>巻頭言 「きく」とはなにか？ 大高研道</p> <p>争論 組合員は顧客なのか？ 土谷雅美</p> <p>本当にほしいものは自分たちでつくる！ 椎木孝雄</p> <p>めざすは「ジャムセッション」</p> <p>特集 こだわり店舗の顧客サービス</p> <p>地域に根ざしたローカルスーパーの店づくり 岩橋涼</p> <p>～愛知県豊橋市「一期家一笑」の取り組み 下門直人</p> <p>規模を追求しない中小小売企業のビジネスモデル 山野薫</p> <p>こだわりスーパーの「こだわりとは」とは ～それぞれのHPから見る</p> <p>くらしと協同をたずねて</p> <p>組合員が営む「私たち」の店 加賀美太記</p> <p>～ワーカーズ遊とグリーンコープ生協ふくおか</p> <p>寄稿 「食と農」セクターにおける連帯経済</p> <p>イタリアのGAS、フランスのAMAP、そして日本の連携</p> <p>Fabio Mostaccio 今井迪代</p> <p>書評</p> <p>『「労働」の社会分析～時間・空間・ジェンダー』ミリアムグラックスマン 竹信三恵子</p> <p>『家族農業が世界の未来を拓く～食糧保障のため小規模農業への投資』</p> <p>国連世界食料保障委員会専門家ハイレベルパネル著／家族農業研究会翻訳 辻村英之</p> <p>『我が国農業問題研究の軌跡～資本主義から社会主義への模索』 暉峻衆三著 庄司俊作</p> | <p>2014年 6月 夏号 A4版 57頁</p> |
| <p>▶ 第10回健康づくり学会</p> <p>~~~~~</p> <p>医療生協の情報誌 COMCOM 2014. 6 562</p> <p>日本医療福祉生活協同組合 連合会</p> | <p>▶特集 私らしく生きる 病気と向き合って 静岡難病ケア市民ネットワークのとりくみ</p> <p>[ハビのつぶやき⑱] 座右の銘は「依存してナンボ」 本のおもちゃ屋 店主 中根桂子</p> <p>[住まう⑱] 生協定年退職者のNPOが運営する住宅 後編 NPO法人かけはし（群馬県前橋市）</p> <p>[介護十人十色⑱] 介護予防や認知症予防を「地域づくり」につなげる 地域回想法に取り組みむ北名古屋市の事例から</p> <p>[TOMOそだち⑱] 親と子ども、地域にとってもよりどころになる保育園に 名古屋市公立保育園保育士</p> <p>[協同のある風景] 218 「新しい地域支援事業」を見ずえて ー私から始まる助け合いー 郡山医療生協小 野支部</p> | <p>2014年 6月 A4版 40頁 定価 410円</p> |
| <p>▶ コミュニティの真ん中にワークを取り戻す</p> <p>~~~~~</p> <p>社会運動</p> <p>2014. 6 411</p> <p>市民セクター政策機構</p> | <p>特集 コミュニティの真ん中にワークを取り戻す</p> <p>解題 米倉克良</p> <p>ワーカーズコレクティブとコミュニティワーク 田中夏子</p> <p>福祉クラブ生協とコミュニティワーク 関口明男(福祉クラブ生協)</p> <p>ワーカーズコレクティブ運動の到達点と課題 藤木千草(ワーカーズコレクティブネットワークジャパン)</p> <p>自然エネルギー100%で発送電も分離～屋久島に見た電力自由化後の未来(後編) 手塚智子(えみねら・とっとり)</p> <p>「みんなで脱原発」の一步を踏み出す 大芝健太郎(フレイライター)</p> <p>韓国から見た日本の協同組合 キム・チョンゴル(漢陽大学)</p> | <p>2014年 6月 B5版 60頁 頒価500円</p> |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>ベンコムーイギリスのコミュニティ利益組合について 林和孝 (ストライドクラブ)</p> <p>日韓つながり直しを進め、東アジアの平和態勢の構築を 矢野秀喜(日韓つながり直しキャンペーン)</p> <p>ミニフォーラム もし家族が認知症になったら! ? 鈴木真理子(街づくり協議会のだ)</p> <p>書評 辻村英之著「農業を買い支える仕組み」 小沢瓦 (山形大学)</p> | |
| <p>▶「2050」研究会 中間報告</p> <p>~~~~~</p> <p>生活協同組合研究</p> <p>2014. 7 462</p> <p>(財) 生協総合研究所</p> | <p>■ 巻頭言 「2050」からの戦前責任 神野直彦</p> <p>▶特集 「2050研究会」中間報告 超少子高齢・人口減少社会の到来 岩澤美帆</p> <p>人口からみた2050年の日本社会</p> <p>超高齢社会における「商助」の追求 — 高齢市場開拓の必要性と方向性 前田展弘</p> <p>「支え合い」のシステムと転換 2050年への一つの処方箋 宮本太郎</p> <p>大介護時代の地域とケア・そして生協 樋口恵子</p> <p>2020～50年を見据えた食品マーケティングの展開 北濱利弘</p> <p>持続可能な社会と社会保障に向けて — 少子化の視点からの提起 — 榊原智子</p> <p>■ 研究と調査 若林靖永</p> <p>屋久島電力調査参加の記 山崎由希子</p> <p>■ 被災地からの報告 2013年下半期の志津川事情を語る② 佐藤俊光・高橋源一 聞き手 鈴木岳</p> <p>■ オープンアクセス (第2回) 宮崎達郎</p> <p>厚生労働省「国民健康・栄養調査」とは</p> <p>■ 時々再録 データが未来の都市を創る? 白水忠隆</p> <p>— 京都スマートシティエキススポ2014報告 青竹豊</p> <p>■ 新刊紹介 憲法問題に関する書籍</p> <p>■ 本誌特集を読んで (2014・5) 安部史彦・大塚敏夫・藪田高広</p> | <p>2014年 7月 80頁 B5版</p> |
| <p>▶希望をもって 病院運営を</p> <p>~~~~~</p> <p>文化連情報</p> <p>2014. 7 435</p> <p>日本文化厚生農業協同</p> | <p>農協組合長インタビュー (7) 「農業支援プラン」で農業振興を 芳坂榮一</p> <p>企業のビジネスチャンスを広げる「農協解体」は、農業と農村地域のためならず 武藤喜久雄</p> <p>院長リレーインタビュー (277) 真下啓二</p> <p>この地域になくてはならない病院として</p> <p>二木学長の医療時評 (123) 二木立</p> <p>リハビリテーション医に必要な医療経済・政策学の視点と基礎知識</p> <p>ポストTPP農政の展開 (4)</p> <p>規制改革会議「農業改革に関する意見」への反論 田代洋一</p> <p>「国際家族農業年」が問いかけるもの (1) 関根佳恵</p> <p>見直される小規模な家族農業の役割 金澤薫</p> <p>臨床科学データの統一</p> <p>伊賀の里モクモク手づくりファーム(最終回) 小磯明</p> <p>愛着ブランド</p> <p>デンマーク&世界の地域居住 (62) 松岡洋子</p> <p>デンマークの最新動向:おらが町の「つどい場」 酒巻豊</p> <p>野の風●海苔の入札は目利きと経験だけが頼り</p> <p>旅する私の素敵な出会い (10) 山本京子</p> <p>史上最高のホテルへ ② 平岡好弘</p> <p>維新前夜の天狗党 高村智行</p> <p>◇第10回厚生連医療機器・保守問題対策会議報告</p> | <p>2014年 7月 B5版 80頁 文化連情報 編集部 03-337 0-2529 *注</p> |

| | | |
|---|--|---|
| | <p>◇第17回厚生連医療経営を考える研究会報告 漆田稔 ◇第18回厚生連病院と単協をつなぐ医療・福祉研究会のお知らせ □自著を語る『整形外科ガール』 清水健太郎 □自著を語る『NHKが危ない』 戸崎健史 ▶線路は続く「福井鉄道 シャッター街を救え」 西出健氏 ▶最近みた映画 「インサイド・ルーウィン・デイヴィス 名も無き男の歌」菅原郁子</p> | |
| <p>▶地域に根ざしたJA経営</p> <hr/> <p>月刊 J A</p> <p>2014. 7 713</p> <p>全国農業協同組合中央会</p> | <p>特集 地域に根ざした J A 経営 ～総合性を発揮する拠点としての支店</p> <p>【提言1】 組織・事業の総合性発揮に向けた協同活動の再構築 石田正昭</p> <p>【提言2】 JA革新に向けた支店協同活動 小林康一</p> <p>【報告】 支店を核とした事例に学ぶ</p> <p>① JA松本ハイランド ② JAえちご上越 ③ JA広島市</p> <p>・きずな春秋 ー協同のこころー 童門冬二 ・中央会制度60年を考える〈特別篇〉 規制改革会議農業WG報告会と“中央会”の役割 ・地方紙ニュース 第40回 「大馬鹿」の輸出 遠山仁（高知新聞社） ・直言！JAへのメッセージ JAは生産者と消費者の架け橋に 木田理恵（女ゴコロマーケティング研究所所長） ・JAトップインタビュー トップ産地の誇りをかけ次代へつなぐ 山梨県JAふえふき 代表理事組合長 關本得郎 ・地域・支店から『戦略』を考える 「地域・支店で『小さな協同』を育む」 一般社団法人 JC 総研 基礎研究部 主任研究員 小林元 ・展望 JA の進むべき道 規制改革とJAグループの事業・組織改革 大西茂志 ・海外だより [DC通信] 38 道路と医療保険改革に垣間見る“個人優先”の価値観 古林秀峰 ・見せましょう、協働の底力！ 協同の力で被災地復興へ（前編） 食のみやぎ復興ネットワーク（宮城県） 青山浩子 ・トピック 第64回 “社会を明るくする運動” 法務省保護局更生保護振興課 ・次代へつなぐ協同実践塾 持続可能な農業の実現 新規就農者支援の現状と課題(果樹産地での新規参入者支援の事例から) JA全中営農部・農地総合対策部 豊かで暮らしやすい地域社会の実現 いま JA 健康寿命 100 歳プロジェクトの取り組みについて JA全中くらしの活動推進部 10年後JAが存続するために 事務リスク管理態勢の改善・強化に向けて（前編） JA全中経営対策部 ・第27回広報活動優良JA紹介 総合の部 準大賞 JAあいち豊田（愛知県）</p> | <p>2014年 7月 A4版 64頁 年間購読 料 5,109 円(送料込)</p> |

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✳)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

2014 第23回 全国ボランティアフェスティバルぎふ

●2014年9月27日(土)28日(日)

申込締切:8月22日(金)

参加登録料:3,000円

(大学生以下無料)

※交流会参加費は別途5,000円

1日目 27日(土) ●会場:長良川国際会議場、都ホテル

12:30-12:55 おもてなし演奏

13:00-13:40 開会式(主催者・来賓あいさつ、ボランティア功労者厚生労働大臣表彰)

13:45-14:45 【記念講演】「未来につなぐ 白川びとの財産」岐阜県白川教育長 倉 嘉宏

15:00-16:30 【清流トーク・セッション】第1部「く知力とく知力」の結集による新たな協働

16:40-17:15 ボランティア文字造語優秀作品発表・表彰式 17:45-19:15 交流会(都ホテル)

2日目 28日(日) ●会場:長良川国際会議場、都ホテル、中部学院大学、岐阜聖徳学園大学 ほか

9:00-12:00 【分科会】 支え合い/ボランティア・福祉/防災・減災/まちづくり/フィールドワーク

13:30-13:40 合唱「わがまち岐阜 清流の歌」

13:40-15:00 【清流トーク・セッション】第2部「思いの結集!岐阜から広げる清流トーク!~地域を包む、点と面のダブルアプローチ~」 15:05-15:40 引き継ぎ式・閉会式

【問合せ先】 第23回全国ボランティアフェスティバルぎふ実行委員会事務局(岐阜県社会福祉協議会内)

TEL:058-274-2940 FAX:058-274-2945

HPアドレス: <http://www.winc.or.jp/zvf/index.html>

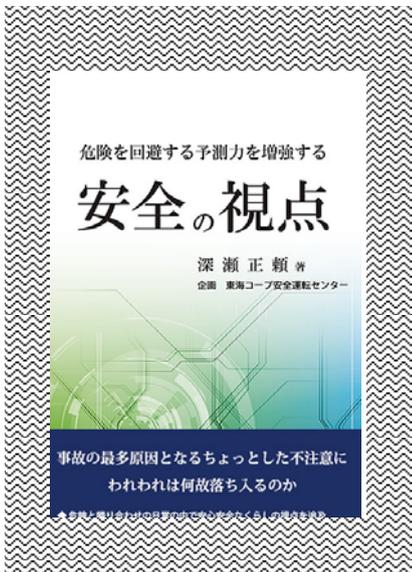
facebook公式ページ: <https://www.facebook.com/zvf.gifu>

書籍案内

危険を回避する予測力を増強する 安全の視点

著者: 深瀬正頼 判型: A5判 頁数: 326頁 発行日: 2014/5/30

定価: 1,803円(税込) 出版社: 悠雲舎



はじめに

平穏な日々を送りたいと望んでも、日常生活の周辺には危険が隣り合わせで存在している。

特に身近にある危険は交通事故であろう。自動車の運転から路上の歩行まで、あらゆる地点に危険が潜んでいる。

運転が生活に欠かせない人にとっては、交通事故との遭遇は、瞬時に我が身の運命を変えてしまう可能性大の切迫した危険と言える。

近年、交通事故による死者数は大きく減少傾向にある。これには道路の改良や法の整備などいくつかの理由があるが、それだけくるま社会が成熟期に入っていることでもある。

だが事故による負傷者の統計をみると、その数は顕著に減少してはいない。無謀な運転による事故は減少した一方で、ちょっとした不注意が原因で起こす事故が圧倒的に多くなっている。

これらは違反別分類の交通統計では「安全運転義務違反」としてくられており、その内容は「漫然運転」とか「安全不確認」などに分類されている。しかし、なぜ漫然と運転するのか、なぜ安全不確認を犯すのかを突き詰めることなしには、事故の回避にはつながらないであろう。日常の危険はそれだけではない。地球温暖化が根本にあるとされる異常気象の脅威は、日々増大している。

2014年7月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 8月の活動予定

4日(月) 常任理事会 6日(水) 事務局会議

8日(金) 協同の未来塾 第5回

11日(月) 生協研究会

18日(月) 三河地域懇談会実行委員会

21日(木) F職員の仕事を考える世話人会

22日(金) 協同の未来塾企画委員会

26日(火) NEWS120号発送

28日(木) 環境パネル世話人会